

茨城大学工学部 令和4年度後期 学科教育点検報告書

令和5年4月17日

報告者 都市システム工学科 学科長 原田隆郎

1. 実施日時と場所

第1回 令和5年3月24日（金）9:00～10:50, 13:00～14:30, Teams 会議

第2回 令和5年3月29日（水）13:00～14:30, Teams 会議

2. 出席者

第1回

常勤教員：山田稔，小林薫，横木裕宗，原田隆郎，桑原祐史，信岡尚道，熊澤貴之，平田輝満，車谷麻緒，辻村壮平，肥田剛典，榎本忠夫，一ノ瀬彩，吉田友紀子，稲用隆一，遠藤克彦，久野靖広，藤田昌史，増永英治（全常勤教員19名のうちの19名が出席）

非常勤教員：出席なし

技術職員，事務職員：出席なし

第2回

常勤教員：山田稔，小林薫，横木裕宗，原田隆郎，桑原祐史，信岡尚道，熊澤貴之，平田輝満，車谷麻緒，辻村壮平，肥田剛典，榎本忠夫，一ノ瀬彩，吉田友紀子，稲用隆一，藤田昌史，増永英治

（全常勤教員19名のうちの17名が出席，クロアポ教員は時間外のため欠席）

非常勤教員：出席なし

技術職員，事務職員：出席なし

3. 添付資料

資料1-1 2022年度（後期）都市システム工学科・教育改善委員会 議事録

資料1-2 都市システム工学科/専攻 FD 研修会議事録

資料2 2022年度（後期）学科・専攻教育改善委員会およびFD研修会 議事次第

資料3 2022年度後期 授業点検改善表集

4. 授業点検の実際

4.1 アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した，授業アンケートの回収状況は以下のとおり。

常勤教員担当科目分：32科目／常勤教員担当科目総数32科目

非常勤教員担当科目分：4科目／非常勤教員担当科目総数4科目

※電磁気学概論，情報スキル，工学実用英語については，基礎教育実施部において点検

が行われるため、計算式から除外した。卒業研究は授業アンケートに馴染まないため、計算式から除外した。

4.2 点検した科目

多変数の微積分学，材料力学，都市・地域計画，線形代数Ⅱ，建築学概論，造形演習Ⅰ，造形演習Ⅱ，構造力学Ⅱ，水理学Ⅱ，地盤力学Ⅱ，複素解析，多変量解析，都市システム情報処理，土木計画学，景観工学，地球環境工学，鉄筋コンクリート工学，建築環境工学，空間情報工学，社会基盤工学基礎演習Ⅱ，建築設計製図Ⅱ，都市システムフィールドワーク，水環境学，河川・水文学，輸送施設工学，建設施工，建築設備，建築構造設計，都市システム工学特別講義，都市防災システム工学，公共事業評価とリスク分析，社会基盤設計演習Ⅱ，都市システム工学実験Ⅱ，建築設計製図Ⅳ，都市システム工学インターンシップ，測量学実習，卒業研究の 37 科目

後期に開講した専門科目の総数 37 科目中 37 科目（100％）

4.3 具体的な点検方法

後期に開講した 37 科目中 36 科目について，以下の方法で点検を実施した。各科目の具体的な点検結果は，資料 1-1 の議事録における「点検評価と結果」を参照のこと。複素解析については，令和 5 年 3 月 29 日（水）13:00～14:30 開催の学科会議内に設けた第二回学部教育改善委員会にて点検を行った。

3～5 科目程度のグループ（資料 2 参照）ごとに，各授業担当の教員が担当科目の授業点検改善表（資料 3）等の資料に基づいて，特に前年度の点検評価で出された各科目の課題・問題に対する対応実績について説明し，それに対しての参加教員全員からの質疑・コメントを受ける形で，点検を実施した。

ファイルが提出された教員間ネットワークの活動状況についても，確認した。

5. 点検評価の結果

5.1 昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

点検を行った全ての科目において，昨年度に改善すべき問題点は改善されていたことが確認された。

5.2 今回の授業方法で優れている点

材料力学と構造力学Ⅱでは，Web 上で繰り返し行える小テストを毎回課して，授業外学習を促す取り組みを実施した。アンケート結果から，この取り組みは好評であった。

5.3 今回の授業方法で改善すべき点

対面出席と遠隔出席が混在するハイフレックス授業において，出欠の確認方法が曖昧

である点が報告された。

6. 教育改善活動

詳細は、資料 1-2 参照。

サバティカル取得教員から、日本と米国の大学や大学院における教育方法の違い、研究方法の違いについての話題提供があり、意見交換を行った。日本と米国では、教員組織や運営方法が大きく異なるため、同じことはできないものの、米国で行われている教育や研究についての理解を深めることができた。

7. 報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類を Teams 内に設置した学科 FD チャンネルに保管し、学科の全教員が自由に閲覧できるようにした。

8. 『産学協同カリキュラム改良委員会』を受けての教育改善活動について

直近の産学協同カリキュラム改良委員会では、主に構造分野における土木・建築の融合教育について意見をいただいた。関係科目において、現状の授業内容および各教育プログラム学生の成績分布を確認した。次年度以降、授業内容についても検討を続けることになった。

9. その他

特になし。